

## 真鶴町立ひなづる幼稚園

研究テーマ：「伝え合い・学び合いを通して育む、確かな学びと豊かな心」

～心と体を弾ませ、主体的に取り組める環境づくり～

### 1、実践の目的

これまで子どもたちの興味を引き出し、それに沿った環境づくりに努めてきたが、一つ一つの活動が繋がらず遊びが継続していく環境が不十分だった。また、教師がリードしていく遊びの展開が多く、一つの遊びを子ども自らが継続することの難しさを感じていた。

そこで昨年度から園の環境構成を見直し、子どもたちの思いや主体性を大切にしたい保育の探求や展開に取り組んできた。その中で、子ども達で遊びを展開、継続、発展できるような環境づくりの意義を再確認した。また、子どもへの関わりや安全配置についても見直し、職員がチームで保育・支援することについての理解も深まった。今年度は、さらに子どもたちの思いを大切に、遊びや活動の環境構成を吟味し、どう支えたらよいかに取り組んでいきたい。

### 2、実践の内容

#### (1) 研究の内容

○子どもたちの思いや主体性を大切にしたい保育を探求・展開する。

○子ども達作り出した遊びを継続させ、発展させる環境づくりの工夫に取り組む。

○研究のための保育ではなく、日常の保育の質の向上に努める。

○幼保小中の12年間の子どもの育ちの連続性を大切に、特に幼保小の円滑なプログラムの推進に取り組む。

○活用しやすい年間計画・月週日案や指導

案について検討する。

○年間を通して幼小中の教師同士がお互いの保育や授業を参観して、町の一貫教育に向けた研究に取り組む。

#### (2) 保育参観・研究協議の様子

外部講師や町の指導主事を招聘して年間5回の保育参観等を行った。

① 6月8日(木) 年中組

② 7月7日(金) 年長組

③ 9月14日(木) 年少組

④ 11月20日(月)～23日(木)全クラス

⑤ 1月30日(火) 全クラス

保育参観では、園長を含めた全教員で保育の様子を参観し、それぞれの幼児の動きを観察し、その内にある思いについて考察した。それぞれの見取りは協議において確認され、それぞれの幼児の理解の深まりにつながった。小・中学校の教員も保育参観に参加し、その見取りや感想は付箋に残され、協議の際や連携に生かされている。③には外部講師や県の指導主事、⑤では大学の教授にも参加していただき、保育の様子について協議を行った。④では3日間小中学校の教員を対象に公開日を設けた。

#### (3) 園内研修会の様子

年間10回のKYT等研修を行った。全職員が危険を察知し、大きな事故に繋がらないための力を身に付けることを目的に行っている。また、子ども理解のための時間としても有効に使っている。

#### (4) その他の実践

研究の3つの柱「ふるさと教育」「外国語

### 3、実践の成果

- 園内研究の中で外部講師に保育の様子を見ていただき、保育の在り方や指導案の書き方など具体的なアドバイスをいただき多くの学びがあった。夏休みにも、リモートで保育に関する課題解決のための質疑応答の機会も設けた。また、年間を通してオンライン研修により、たくさんの研修に参加でき、多くを学ぶことができた。
- KYT 等研修や打ち合わせ、保育の振り返りや幼児についての共通理解等を通して、全職員が保育の体制を共有することで園が子どもにとって安心し自己発揮できる良い環境となってきた。
- 合同研究部会では、それぞれの部会で小中の先生方と情報の交換や今後の研究の見通しについて話し合うことができた。
- 小中学校の参観の機会があったり、小中の先生方も園内研究に参観に来たりしてくださった。
- 子ども主体の保育の展開をめざすことで、遊びの中で異年齢児との交流も徐々に増え、お互い良い刺激を与えあっている。また、遊びの時間を十分確保することで、興味をもった遊びにじっくりと向き合い試行錯誤をしながら繰り返し遊びを楽しんでいる様子に変化している。
- サークルタイムで、子どもとの対話、聴く、伝え合う、振り返るということを大切にしてきた。子ども達から出た意見を尊重し、それを実現していくために一緒に考え進めていくことで充実感や満足感を味わい、自分たちで遊びを考え、進めることにつながっている。また、意見をウェブマップや写真、ドキュメンテーションで提示したりマチコミメールで保育状況を知

らせたりすることで可視化され、子どもや保護者と活動を共有することにつながっている。

- 自分たちの思いや考えが活かされた遊びや活動が展開されると、達成感や満足感につながり、子ども達の自信になっている。自ら「挑戦したい」「次はこうしたい」という目的意識も育ち、自発的行動へとつながっている。
- 個で支援するだけでなく、支援員も含めてチームで保育・支援することができている。

### 4、今後の展開

今後の研究の方向性と課題への対応

- 子どもたちの発想を生かすことと教師の進める願いやねらいに迫る教育のバランスが難しく、場面によっては教師主導となってしまう。子どもと教師の主体がバランスよく共存していけるよう、学びを深めていきたい。
- 指導案、指導計画については、常に振り返りやすく保育に生かせるものにできるように今後も検討、改善していきたい。
- 取り組んでいる主体性を育てる保育について、行事等を通してその都度保護者や地域に知らせ、理解を図っているが、まだ十分ではない。今後も懇談会やマチコミメール、ポートフォリオなどを活用し、子ども主体を大切にした保育を心がけ、園児・教師・保護者・地域の方がわくわくする楽しい幼稚園づくりに参加できるようにしていきたい。
- 自発的な活動としての遊びが充実する環境が整えられるための教材研究に努めていきたい。
- 幼小中の一貫教育推進のために、さらに相互理解を図り、連携していく必要がある。